

## 重度の障害のある子ども達との音楽活動 — 毎回の実践から捉えたもの —

安 藤 昌 子  
飯 田 和 也

### I はじめに

子ども達との出会いは、名古屋市教育委員会・生涯学習推薦センター・教育サポーターネットワークを通してである。この会は、養護学校・高等部に通う子ども達（メンバーと呼ぶ）の保護者有志が、療育作業施設を作ることを目的として活動している。5月の活動は、初回ということと、メンバーが重度・重複障害を持った肢体不自由児で、活動は車椅子で行うことになるということで、事前の保護者との打ち合わせは念入りに行った。メンバー達との活動実践では、予想した変更も多少あったが、家族やボランティアの介助のおかげで参加者全員の好評を得ることができた。また、終了直後に保護者からの依頼をいただき、今回の夏休みの活動へとつながった。養護学校が夏休みの時期である8月の一連の活動を、音楽療法的な効果を得られる内容も取り入れた実践から、見えてきたことや捉えておきたいことを纏める。<sup>(註1)</sup>

### II 方法

今回の音楽活動を療法的な立場から考察するための方法として、以下を纏める。

#### 1. 活動の実践

音楽活動の実践はメンバー保護者との打ち合わせで、夏休み期間中に4回行うことに決定した。

#### 2. 参加者へのアンケート調査を行う

### III 結果および考察

#### 1. 活動の実践

##### ①実践内容

具体的な実践を以下に記述する。(毎回の実践時に配布した資料を巻末に掲示する。)

場所：グループの集会所を使用する。2部屋がつながる形でできていて、一方にはキャンプ用のシートの上にマット、タオルケット、毛布などを敷く

ことで、メンバーが横に寝た位置で身体が硬く感じないように工夫をする。対象：会のメンバー有志(4~6名)、保護者、介助者(ヘルパー・ボランティア)

日時：夏休み金曜日、実際の活動時間は、1時間20分ほどである。午前10時頃、車椅子専用送迎バスなどでメンバーが到着し、セッティングを始める。活動開始時間は10時20分近くになり、12時前には終了、片付け、後にティ・タイム(お茶と打ち合わせ)がある。12時30分に送迎バスが到着し、解散する。

毎回の活動に向けての工夫は、内容を事前に保護者代表と打ち合わせることと、毎回の活動内容をプリントし、参加者(保護者、ボランティア)に配付することである。

環境設定・配置(2部屋分)：前半の活動は奥まった場所で行い、テーブル(キーボード、CDデッキ、ビデオカメラを配置)を囲んで、車椅子のメンバーと介助者がサークルになり、保護者は座席で後方から見学する。(1回目)後半の活動は入り口近くで行い、マットの上にタオルケットやクッションなどを敷く。

毎回の活動で用意するもの：名札 活動のプリント キーボード 延長コード CDデッキ(CD) マット・タオルケット(毛布) テーブル打楽器ビデオカメラハンドベルテーブル

#第1回8月1日：対象者は、メンバーの子ども達5名+保護者3名+介助5名(ヘルパー、ボランティア)で、椅子の配置は、左からテーブルを中心に順に以下ようになる。

[ボラ+TB=ボラ+MY=介助者+TK=ボラ+N=H+ボラ]

全員が配置すると、メンバーの名前を知る目的の「♪名前を書いて名札をつける」活動に入る。名札カードを3種(ピンクのハート・黄色の小鳥・

黄緑色のくま)用意し、各自が好みのカードを選択し、カードに名前(愛称)を介助者が記入し、名札とする。

TB君は無表情であるが、どのカードにしようか考えている様子であったが、保護者と「黄色のくま」に決めた。MYさんは、盲児であるが、保護者の言葉「MYちゃんはピンクが好きだもんね!」の言葉で、「ピンクのハート」を選択した。TK君はじっと見て自分の意志で選択し、ヘルパーに文字表で伝えた。N君はボランティアとやり取りして、H君はヘルパーと文字表でカードを選択した。

メンバーが名札をつけ終わると、用紙2枚(今日の活動、自己紹介)を配付し、「♪自己紹介」に入る(自己紹介用紙と筆記用具を配付し、メンバーについてを記入していただく)。用紙を回収し、キーボードで音を入れながら、記入された回答用紙に沿ってTB君から介助者に聞いていく方法で「自己紹介」(左から)をする(視線はメンバーに向けて、言葉掛けを心がけた)。

前半の活動を終了すると、場所を移動して「♪全身リフレッシュ体操」に入る。子ども達は車椅子から降ろされ、用意されたマットの上にそれぞれ横になり、保護者や介助者が付き添う配置になる。テーブルの上にはキーボードとCDデッキを配置する。キーボードの童謡に合わせて、まず、手→足の順に触れる(キーボードの童謡「こぎつね」「きらきら星」の音は、気分を変え、音に集中する目的で、1回演奏するごとに2度ずつ高い音程の調に移調する工夫をした⇒C-dur → D-dur → E-dur → F-dur → G-dur)胴・頭はCD「オルゴール・ハーモニー・アルバム」を流しながら、1曲ごとに順に子ども達をまわる。使用曲⇒CD「オルゴール・ハーモニー・アルバム ディズニーより」

活動終了後、終わりの挨拶と次回の予告を行う。「自己紹介」でそれぞれの好きな歌が分かったので、次回の活動では好きな曲のCDやテープを持ち寄って、順に1曲ずつ聴くことにした。

#第2回8月8日:対象者は、メンバーの子ども達6名+保護者4名+介助5名(ヘルパー、ボランティア)で、左からテーブルを中心に順に椅子の配置は、以下ようになる。[TK+介助者=H+親=TU+介助者=TB+ボラ+親=MS+介助

者+親=ボラ+MY+親]全員が配置すると、「♪名前を書いて名札をつける」次に、「♪好きな曲は何?」では、配付した用紙に介助者がメンバーが持ち寄ったCDの曲名・好きな理由を記入し、順に介助者が曲名を紹介し、全員で鑑賞する。介助者はメンバーの手を取り、曲に合わせて歌ったり、揺らしたり、踊ったりした。MYさん、大声を出していたが、自分の好きな曲では集中して声がなくなった。車椅子を曲に合わせて左右に揺らすと、CDの音と車椅子の動きを感じていた→受容していた。クイズの好きなメンバーがいることを保護者から聞いていたので、即興で「♪この曲曲ですか?」をやった。映画の題名を当てるあそびである。(「ロッキーのテーマ」「スーパーマンのテーマ」)

次の活動「♪色ゴムでボールをまわそう!」は、介助者が色ゴムひもをつなぐ作業をした後、音に合わせてゴムひもをみんなで回す予定であったが、この活動はうまく行かなかった。ゴムを回す動きで介助者が忙しいだけであった。メンバーと介助者との連携を大切にしたい。「♪全身リフレッシュ体操」(毎回)音にあわせて全身リフレッシュ体操(1時間20分終了)

#第3回8月22日:全員が配置すると、用紙3枚を配付した。用意した吹く楽器をメンバーに配付した。「♪笛を鳴らそう!」では、オカリナや笛を吹くことが目的である。TK君は介助者が笛を口へやると吹こうとしていた。1回かすかに音を出すことができた。音が出ることに「吹こう」とした(やろうとした)意欲を大切にしたい。Mさんは、今回は吹くことはできなかったが、時間をかけることで音だしは可能だろうと推測した。打楽器では、MYさんとTK君が音を出そうとしていた。

「♪ハンドベルを鳴らそう!」では、メンバーを含めた全員に楽器を渡して、合奏した。今回からは、「対象をメンバーから全員」にした実践に切り替える。また、活動の実践が、今後のメンバーの活動に活かすことができるように、保護者や介助者への語りかけも心がけた。

次の「♪クラシックを聴こう!」では、CD「トッカータとフーガ 二短調」(J.S. バッハ作曲)を鑑賞した。バッハについて説明(インターネット「作曲家」で検索):顔絵プリントを見せ

ながらバッハの音楽家としての生涯を説明した。鑑賞では、メンバーが興味を示さない場合は途中で切る予定で開始、長さ8分ほどの曲であるが最後まで鑑賞できた。音楽の揺らぎはメンバーの心をも動かすことを実感した。

後半は、「♪全身リフレッシュ体操」(毎回の活動)CD、1曲ごとに一人一人を回るが、保護者が各メンバーの順番を待っているのが分かった。MYさんは大声を出していたので、予定より早く2番目に回った。以後は大声を出さなくなった。MY保護者は、「リラックスしてるわ」と言った。(1時間30分終了)

**＃第4回**8月29日：対象者は、メンバー6名+(保護者4名、ヘルパー2名、ボランティア3名、計9名)全員が配置すると、用紙2枚を配布した。今回は、全員合奏までしたいので、「♪合奏しよう!」では、いろいろな楽器でリズムを作り、合奏につないだ。活動は、“メンバーの子どもたちだけがやらされた”ではなく、“子どもたちを中心に全員がやった、参加した”という結果になるような実践方法で進めた。保護者には、第3回と同じように語りかけを心がけた。また、「リズム画用紙」「ハンドベルの模造紙」を見せる視覚的な工夫で、実践した。また、打楽器以外のものでも、楽器として使用できることを[帽子の箱→太鼓]で示した。帽子の箱は、TK君が打ちやすい場所に介助者が持って行き、TK君が左手でスティックを下ろすことで音を出した。歌唱では、保護者、介助者など、“できる人が歌う”工夫をした。即興で音を出して曲名を問う「♪この曲何ですか?」も取り入れた。

「♪クラシックを聴こう!」では、ベートーベン作曲のCD「交響曲第5番 運命」第1楽章を鑑賞した。顔絵プリントを見せながら生涯の説明をし、キーボードで有名なピアノ曲「エリーゼのために」の冒頭を演奏して題名の由來說明を、“運命の動機”「ダ・ダ・ダ・ダーン」の説明などをして、改めて作曲者を知ることができた。前回と同じく鑑賞では、メンバーを含めて全員が8分ほどの間、集中して静かに聴いていたのが印象的である。「全員が静かに曲を聴くことができた。」と驚いていた保護者の言葉があった。クラシック音楽を聴く活動は、高齢者が対象の音楽療法セッションで好まれるものであるが、対象者を

特定しなくても心に響くものがあることを改めて実感した。「♪全身リフレッシュ体操」(毎回の活動)(1時間30分終了)

②実践時の出来事(記憶、印象に残ったもの)

**＃♪1回目終了後**：5月の活動以来、久々の対面であったが何とか実践できたと思う。メンバーの状態の違いは、保護者の説明にもあったが、実際に、一人一人違うことが理解できた。個性が多少見えてきたので、記入する。TB君は、表情にはほとんど出さないが周りの雰囲気をよく見ている。MYさんは、関わりを感じていないと大きな声が出る、不安を感じる?(右足自由)TK君とH君は、顔で表情を読み取ることができる。文字表「50音のカード」で意思を伝える。N君は、顔で表情を読み取ることができる。

MYさん→左足がいつも冷えているが、足もみでみるみる足裏の血色がよくなり、体温も上昇しているのがうかがえる。手・指1本ずつの刺激を受容している。全員がキーボードの音やCDを聴きながら、刺激を受容していることがうかがえる。活動の途中で、数名の親の言葉「気持ちよさそうにしているわ」が出る。メンバーの受容している様子と保護者の言葉から、子どもたちがより良い状態にあってほしいと思う親の気持ちが伝わった。「全身リフレッシュ体操」を毎回の活動に入れることへの確信を得た。

・活動終了後のティ・タイムで見えたこと

TB君は流動食を作ってもらおう。(飲料水は禁止)MYさんは介助で飲む。他のメンバーはストローやスプーン、専用コップなど使用するが、単独では飲食不可のようだ。

**＃♪2回目終了後**：第1回目の実践終了後の記録から、対象をメンバーだけではなく、参加者全員(メンバー、保護者、ヘルパー、ボランティア)とする実践を試みた。その結果、音楽活動の実践は、会のメンバーにただ与えるだけで終わるのではなく、全員が対象者となることで保護者や介助者が活動内容を理解することができ、また、今後の活動につなぐこともできると思った。MSさん、TUさんも参加した。

**＃♪3回目終了後**：

活動終了後のティ・タイムでの出来事

TB君→介助者はヘルパーである。保護者が12

時頃来るはずであったが、12時15分になってもまだ来ない。ヘルパーが流動食を作り、与えようとしたがTB君は嚥下ができなかった。ヘルパーは「お母さんじゃないとだめだね、少し我慢してね。今日はいつもより機嫌、悪いね……。」と言っていた。日常の介助者は、母親である。母親が不在のときの介助の困難さを感じた。また、保護者の大変さが伝わった。解散のとき、「TB君、さようなら。」と手を取ったが、その手は離れようとしている様子がみられた。ほとんど表情には出さないが、TB君がこの場面を受容していないことが理解できた。

# ♪ 4回目終了後：

TK君が音楽鑑賞の途中で腹痛になった。保護者は金曜日が仕事で不在であったため、ヘルパー（男性）が文字表でTK君と言葉のやり取りをした。すぐにエアコンの設定温度を高く（27℃）して、タオルケットでひざを覆った。活動が「全身リフレッシュ体操」になった時、また、腹痛でヘルパー（男性）がトイレへ抱いて連れていったり、

携帯電話で保護者と連絡をとったりした。異性（女性）のヘルパーではできないこともある。

先回は車椅子がベッドのように寝かせてあったTUさんは、今日の活動では車椅子の調節が座位に近くなっていた。より動くことができるようにとの保護者の配慮があった。

メンバーと保護者が音楽的な活動を行う時、子どもたちだけにやらせるような活動にならないためには、みんなでやるという工夫が欲しい

③大切にしたい働きかけの内容

- 音楽の楽しさを味わう
- 合奏につながる打楽器やハンドベルの使用法を楽しむ
- 音楽をグループ全員で楽しむ手段を広める
- 音楽療法的活動を味わう
- リラックスを味わう
- 音楽活動の多様性を広める（音楽あそびに楽器を取り入れる）

④活動に取り入れた項目と療法的な目的を纏める（表1）

表1

活 動 名	療 法 的 目 的
♪1「自己紹介」 ・メンバーと介助者がやり取りをして「自己紹介」を用紙に記入する。 ・キーボード即興伴奏で、順に参加メンバーの紹介 ・介助者と指導者による間接的な自己表現	・介助者による自己表現 ・音楽の即興による紹介での自己実現 ・集中力や注意力の向上 ・他の人と関わることで社会性の向上 ・参加意識を高める ・言葉によるコミュニケーション活動 ・認知機能の向上 ・情緒的安定
♪2「好きな曲は何？」 ・好きな曲のCDやテープを持ち寄る ・メンバーと介助者がやり取りして記入 ・発表、鑑賞する  ※大学生を対象にした聴取音楽の鑑賞による感情変化の実験結果から、好意度（好み）の違いにより高揚感や感情変化が確認された。 <sup>(注2)</sup>	・介助者による自己表現 ・好きな音楽の紹介で自己実現 ・集中力や注意力の向上 ・他の人と関わることで社会性の向上 ・参加意識を高める ・言葉によるコミュニケーション活動 ・認知機能の向上 ・情緒的安定 ・高揚感や快感情の誘発 ・音楽鑑賞で想像力を豊かにする
♪3「色ゴムを回そう！」 ・キーボードの童謡に合わせて、サークルを作り、輪になった色ゴムをみんなで回す	・身体的機能の向上 ・身体的バランス、コントロールの向上 ・集中力や注意力の向上 ・他の人と関わることで社会性の向上 ・言葉によるコミュニケーション活動 ・認知機能の向上 ・情緒的安定 ・音楽鑑賞で創造力や想像力を豊かにする

活 動 名	療 法 的 目 的
♪4「笛を鳴らそう！」 ・ 笛を鳴らす ・ 音にあわせて笛を吹く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介助者による自己表現</li> <li>・ 呼吸器機能の活性</li> <li>・ 身体的バランス、コントロールの向上</li> <li>・ 自分で音が出せた達成感</li> <li>・ 集中力や注意力の向上</li> <li>・ 他の人と関わることで社会性の向上</li> <li>・ 言葉によるコミュニケーション活動</li> <li>・ 認知機能の向上</li> <li>・ 感覚、知覚の機能向上</li> </ul>
♪5「ハンドベルを鳴らそう！」 ・ ハンドベル、打楽器を鳴らす ・ 合奏 ・ 童謡の演奏 ・ 指揮者になる ・ 楽器を持ち替える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介助者による自己表現</li> <li>・ 身体機能の活性</li> <li>・ 身体的バランス、コントロールの向上</li> <li>・ 自分で音が出せた達成感</li> <li>・ みんなで合奏できた達成感</li> <li>・ 集中力や注意力の向上</li> <li>・ 他の人と関わることで社会性の向上</li> <li>・ 言葉によるコミュニケーション活動</li> <li>・ 認知機能の向上</li> <li>・ 感覚、知覚の機能向上</li> </ul>
♪6「クラシックを聴こう！」 ・ クラシック音楽を鑑賞する。 ・ 作曲者の顔絵や生涯を紹介 ※聴く活動は受容的音楽療法である。心療内科領域では、受容的音楽療法の「音楽の癒しが患者の不安やストレスの緩和が、症状の改善に良い効果をもたらしている」 <sup>(注3)</sup> 臨床例が多く、いろいろな症状の改善に効果がみられるという報告がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介助者による自己表現</li> <li>・ 音楽鑑賞で創造力や想像力の育成</li> <li>・ 集中力や注意力の向上</li> <li>・ 情緒的安定</li> <li>・ 音による精神的な刺激</li> <li>・ 心理的な充足感の獲得</li> <li>・ 作曲者の説明で教育的な働きかけ</li> </ul>
♪7「どっちの音が高い？」 ・ 音の高低を聴く音あそび ・ ♪8の導入とする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介助者による自己表現</li> <li>・ 楽器を持つことで身体的バランス、コントロール</li> <li>・ 集中力や注意力の向上</li> <li>・ 認知機能の向上</li> <li>・ 他の人と関わることで社会性の向上</li> <li>・ 音であそぶことを楽しむ</li> <li>・ 言葉によるコミュニケーション活動</li> </ul>
♪8「合奏しよう！」 ・ ハンドベルと打楽器、キーボード、歌唱で合奏 ・ 実践方法を説明する ・ リズム画用紙や模造紙の教材を使用する ・ 演奏の技術の指導を含む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介助者による自己表現</li> <li>・ 身体機能の活性</li> <li>・ 身体的バランス、コントロールの向上</li> <li>・ 自分で音が出せた達成感</li> <li>・ みんなでできた達成感</li> <li>・ 集中力や注意力の向上</li> <li>・ 他の人と関わることで社会性の向上</li> <li>・ 言葉によるコミュニケーション活動</li> <li>・ 認知機能の向上</li> <li>・ 情緒的安定</li> <li>・ 感覚、知覚の機能向上</li> </ul>
♪9「全身リフレッシュ体操」 ・ 童謡やCDの静かな音に合わせて、手→足→胴体→頭部を揉む、打つ、つまむ、押す、擦る。 ・ 音楽にあわせて身体に触れる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽に合わせて肢体に触れる</li> <li>・ 身体部位を体感する</li> <li>・ 言葉で身体部位の意識</li> <li>・ 身体的、精神的リラックス</li> <li>・ 精神的安定、心理的充足感の獲得</li> <li>・ 緊張の緩和</li> <li>・ 血行の促進</li> <li>・ 全身リフレッシュ</li> <li>・ コミュニケーション活動</li> </ul>

⑤表1から、今回取り入れた一連の活動を、音楽療法的視点から纏める。

\*前半の活動：メンバーを中心に介助者や保護者  
と行う音楽活動。

- ・集団の中での自己表現
- ・身体機能の活性（バランス、コントロール）
- ・認知機能の向上
- ・感覚・知覚の機能向上
- ・高揚感や快感情の誘発
- ・集中力や注意力の向上
- ・コミュニケーション活動
- ・達成感を味わう
- ・社会性の向上（人と関わる）
- ・スキルの習得
- ・創造力や想像力の育成

\*後半の活動：「全身リフレッシュ体操」

- ・音楽に合わせて肢体に触れる
- ・身体部位を体感する
- ・言葉で身体部位の意識
- ・身体的、精神的リラックス
- ・精神的安定、心理的充足感の獲得
- ・緊張の緩和
- ・血行の促進
- ・全身リフレッシュ
- ・コミュニケーション活動<sup>(注4)</sup>

## 2. 参加者へのアンケート調査を行う

### ①アンケート調査の目的

音楽療法や療法的な目的で音楽活動を行うときは、実践前にクライアント（参加者）の実態を把握しておくことで実践内容をより療法的なものとする事ができる。日常生活、家族との関わり、生育暦、健康面、心理状態などを、具体的な疾患とともに把握しておくことは、今回の活動の実践のために捉えておきたい事柄である。

児童対象の音楽療法におけるセッション前のクライアントの事前の把握について、篠田智璋氏は、「学校での様子、家庭での様子、家庭でどのように音楽が存在しているか、日常生活の中での社会性、表現能力、言語能力、身体機能、服薬状態、トラウマ（精神的外傷）の有無、音楽の嗜好」などを挙げている。<sup>(注5)</sup>

今回の調査の目的は、参加児童の実態把握と音

楽療法の実践結果の考察である。調査は、第3回目終了後に行った。記入者は、介助者である保護者、ヘルパー、ボランティアで、介助者が捉えたメンバーの活動への関わりと、メンバーの実態把握を調査内容とした。記入方法は、「○?×」式回答と、子どもたちの活動に対する関わりと保護者や介助者の意見を記述するものである。<sup>(注6)</sup>

### ②アンケート調査結果から捉えたもの

#### ♪1 音楽活動について

前半の活動では、様々な音楽活動や遊びの実践をした。音楽的活動に対するアンケート調査結果からでた意見を以下に記入する。

- ・音楽を聴くこと、鳴らすことは楽しそうだった
- ・手で持つより体で鳴らす方が楽しそうだった
- ・音楽にのって体を動かしているのが印象的だった
- ・ハンドベルはみんな楽しそうにやっていた
- ・グループで楽器を変えてやったり、と、“音”や“仲間”に関心が向いた
- ・音楽は言葉がなくても交流できるのでいいと思う
- ・ジャンルは色々あるが好きな曲を聴くだけでもリラックスできる
- ・いろんな楽器に触れたり、懐かしい曲にも挑戦、母たちも楽しんでた
- ・クラシックの説明も聴くことができよかった
- ・色々な楽器に触れたこと、色々なジャンルの音楽が聴けたこと、特にクラシックを皆が静かに聴けたのが以外だった
- ・「運命」について共感しているようだった
- ・みんなと好きな曲を歌えてよかった
- ・音楽に合わせて何か行動することは楽しいようだ
- ・笛は難しいようだ
- ・ヒモ（をまわそう）は持ちやすかったが、逆回しするのが大変だった

#### ♪2 全身リフレッシュの試みについて

\*東洋医学くあんまマッサージ指圧についての基礎知識>について

童謡にこんな歌がある。「かあさん お肩をたたきましょう タントン タントン タントン

……。この童謡のタイトルは「肩たたき」である。歌詞の内容は、子どもが家事や仕事で肩が凝った母の「肩たたき」をするものである。日常生活の中で肩こり、腰痛、疲労感などを身体に意識したとき、私たちはよく肩をたたいたり、腰や背中などをさすったり疲れた足をもんだりすることで痛みや疲労感を緩和したりする習慣がある。

一般に言われている「按摩、マッサージ、指圧」の行為をインターネットで検索した。東洋医学では以下のように扱う。

「按摩」の起源は、紀元前 400 年の頃で、6 世紀には日本にも伝わったとされている。按摩の「按」の字は「おす」、「摩」の字は「なでる」という意味を持っている。実際は身体を中心から末端に向かって「もむ」手技である。

「マッサージ」の起源は、西洋で行われていた治療法で、フランス、ドイツで発達した。日本には明治時代に伝わったとされている。身体の内側から中心に向かって直接皮膚を「さする」手技である。

「指圧」の起源は、大正時代はじめて、古来の按摩術にアメリカのカイロプラクティック、オステオパシー（整骨療法）などの理論や技法を取り入れて発展した。指などで身体の内側から末端に向かって「おす」手技である。

按摩、マッサージ、指圧は「手技 3 法」とも言われ、施術者は免許を得るためには指定の学校を出る必要がある。これら手技 3 法の治療効果は、血液循環の改善、内臓機能調整、神経機能の向上、筋緊張の弛緩、疲労回復が挙げられる。また、マッサージでは神経系に影響を及ぼして痛みの緩和や、筋疲労の回復が早まる。指圧では高血圧、不眠症、神経痛、リウマチ、便秘などにも効果がみられる。しかし、高熱性疾患、化膿性疾患、悪性腫などの急性疾患には逆に作用しやすいとされている。<sup>(注7)</sup>

能動的な立場（揉む）、受動的な立場（揉んでもらう）であっても、コリの回復もさることながら、お互いにやってあげた、してもらったという繋がりも意識することとなる。素人療法として行う「按摩・マッサージ・指圧」であっても、精神的には、安らぐ、満足、落ち着く。身体的には、コリ、緊張の解消、血行の促進、身体機能や体温の維持などの効果はある。また、この活動は、精

神的安定や身体的活性の効果以上に、お互いの繋がりや絆、信頼関係を深めるコミュニケーション活動の手段の 1 つでもあるといえるのである。個人的な体験とこれらの効果を期待して、毎回の活動に「全身リフレッシュ体操」を考案した。使用する音楽は、躍動感があり簡潔でだれでも慣れ親しんでいる童謡にした。

\* アンケート調査結果からでた保護者、介助者の意見を以下に記入する。

- ・体操は気持ちよかった
- ・はじめは力が取れなかったけれど少しずつ慣れていった
- ・体が楽になりました、楽しかった
- ・定期的に取り組むことは見通しがつきやすく楽しみにつながると思う
- ・1 つのことを継続的にできると本人により分かりやすくなる
- ・繰り返し行うことで少しずつ学習ができる
- ・リラックスしている感じがとてもいい
- ・足裏の刺激がいいとか、様々なことが聞けて勉強になった
- ・マッサージするとみんな気持ちよさそうだった
- ・やっぱり触れながら話すのはリラックスできていい

### ♪3 一連の活動について

活動全体に対する意見と今後の要望について、以下に記入する。

- ・人と場所、状況に慣れる
- ・とても勉強になった
- ・本人は体を動かすと痛いから、本人が楽しんでやるのがよかった
- ・他のメンバーさんのことについて、より、知ることができた
- ・前半に楽器を含めて音楽を楽しみ、後半はリラックスして身体に触れる良い企画だった
- ・子ども達についていろいろと考え、取り組んでもらった
- ・毎回、子ども達の反応を敏感にキャッチし、いろんな工夫があり、楽しかった
- ・いろんな実践を楽しむことができた
- ・子どもの状態に合わせて考えていた
- ・短期間で手狭な中にもかかわらず、色々なバ

リエーションができた

- ・少しずつ個々の理解を経て、今後も続けていけたらステップアップできる
- ・全体的に楽しかった
- ・少しずつ出来上がっていく、何か完成できることで発表や形に残したりして続けば最高
- ・音、音楽はいい。耳が聞こえなくて体で感じると思ってもステキ
- ・いつもメンバーの子ども達は見学したり、聞いたりするだけなので、披露できる機会がほしい
- ・ハンドベルを使って本人が自分で音を鳴らすことができたらいと思う。そして、皆で1つの曲を演奏できたらと思う
- ・手遊びゲーム（TK君、文字盤で聞き取る）
- ・もう少し会場が広いと音楽にあわせて体を動かすことができるのではないかと思う

#### ♪ 4 実践者として見えてきたこと

4回の活動で実践者として捉えておきたいことは、活動の対象についてである。対象をメンバーだけにすると、活動の実態は、実践者、保護者、介助者全員がメンバーを動かすことになる。メンバー達が、実践者、保護者、介助者全員に動かされる立場（やらされる）を意識することは、心理的に辛いのではないかと推測した。メンバー達の負担にならない雰囲気作りの工夫は何か。対象を、「メンバー達」から「メンバーを中心にした参加者全員」に変化させたことで、活動は、メンバー達への介助をしながらみんなで楽しむことを共有し、集中力や注意力の向上を図り、みんなでできた達成感を味わい、人と関わることで社会性の向上にもなるコミュニケーションの場となった。

アンケート調査の結果から、記述式の回答では、保護者の意見が他の介助者に比べて圧倒的に多く記入されていた。まとめると、「いろいろ体験した」、「この体験を発表につないで形にしたい」、「もっと体験させたい」であった。「体験する」ことは、認知能力や身体能力の向上、コミュニケーションの機会を多くして社会性を向上させる。青年期に達しているメンバー達が体験することでより多くの刺激を受け、「発達する」ことを願う保護者の要望（親の気持ち）が伝わった。

#### ③養護学校における「自立活動」について

対象者（メンバー）は、養護学校の2、3年生に在籍している。今回の音楽活動を行うにあたって、対象者が在籍している養護学校の実態把握はメンバー達、一人一人を知る目的で大切にしたい事柄である。また、音楽活動の療法的な内容と目的が養護学校における自立活動につながるものでもある。

養護学校における自立活動の指導について、以下のように記述している。「自立活動の指導は、障害に基づく種々の困難を改善・克服し、自立し社会参加に役立つ資質を養うため、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする。特に、自立活動の時間における指導は、各教科に属する科目、特別活動及び総合的な学習の時間～と密接な関連を保ち、個々の生徒の障害の状態や発達段階等を的確に把握して、適切な指導計画の下に行うよう配慮しなければならない。」<sup>(注8)</sup>

#### 自立活動の目標と内容

自立活動の目標は、「個々の生徒が自立を目指し、障害に基づく種々の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。」ものである。<sup>(注9)</sup>また、自立活動の内容では、以下の5項目を挙げている。<sup>(注10)</sup>

- 1 健康の保持
- 2 心理的な安定（旧「心理的な適応」）
- 3 環境の把握（旧「環境の認知」）
- 4 身体の動き（旧「運動・動作」）
- 5 コミュニケーション（旧「意思の伝達」）

メンバーたちが学外のいろいろな活動に積極的に参加している様子から、保護者が子どもたちに多角的な積極的な働きかけをしていることが推察された。自立活動の目標である「～自立を目指し、障害に基づく種々の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。」<sup>(注11)</sup>ことは、養護学校だけではなく、家庭でも行われているのである。

#### IV 終わりに

養護学校における子ども達の障害の重度・重複化について、平成12年5月の特殊教育諸学校小



学部、中学部を例に挙げ、以下のように述べている。

昭和 54 年に養護学校教育の義務制施行により、重複疾患を持った児童生徒の数が増加した。また、重複障害学級在籍児童生徒数の中で、盲学校、聾学校、知的障害養護学校、病弱養護学校の生徒よりも、肢体不自由養護学校の生徒の割合がより重複化しているという報告がある。<sup>(注 12)</sup>

養護学校における自立活動や、実践されている障害のある子ども達との地域の幅広い活動が、試行錯誤しながら行われているのを今回の療育施設を作る会との関わりから垣間見ることができた。

一連の活動では、「全身リフレッシュ体操」を毎回取り入れることで、メンバーの子ども達の精神的、身体的なリフレッシュを療法的効果に挙げることを想定して実践した。確かに療法的効果を得ることができたが、他に参加者のコミュニケーションの場になるということも実践結果として得ることができた。第 2 回目の活動終了後の保護者の言葉から色ゴムを回す活動についてやりにくかったという意見を聞くことで、実践の視点の違いに気づいた。メンバーへの働きかけだけに奔走していたことに気づき、実践方法を改めた。メンバーを取り巻く保護者、介助者への働きかけが、最終的にメンバーへの働きかけになるのである。対象をメンバーから保護者や介助者へと範囲を大きく変更したのである。当然、活動の実践もメンバーだけでなく、参加者全員へと変更させるに至った。そして、今回の一連の活動の経験が、メンバー達の今後の発表の機会に活用できるように細かい説明をつけるやり方に変更した。活動の実践は、具体的には、できる人がやるのである。介助をしながら歌える人は歌う、楽器を鳴らすことができる人は鳴らす、できる人が指揮者になって指揮をするというように、音楽することがこんな方法でもできるということを説明と実践で味わうことで、今後につなぐことを指導した。活動の実践を残すという意味で、毎回のプリント配付は、結果として有効であった。

また、実践終了後の保護者の言葉の断片から、活動の実践を通して、メンバーの子ども達へのより多くの関わりと、動かすことで多くの刺激を与え、子ども達を多方面から働きかけることで、子

どもたちに「育ててほしい、発達させたい」親の願い、要望（親の篤い思い）が伝わるのを実感した。重度の障害を持つ子ども達の音楽活動で大切にしたいことは、子ども達が「多くの体験をすることと、子どもを「体験させたい」と願う親の切実な気持ちがあることが理解できた。

今後は音楽活動を通してこの会との関わりを大切にしながら、メンバー達が「生きている喜び」、「もっと生きていたい」という意欲、「自分なりに工夫して音楽に関わる態度」を評価し、保護者の活躍を見守っていききたい。

♪会のメンバー及び保護者の方々へ：

今回の活動では、丁寧な説明やビデオ撮影の許可など、多くのご配慮とご協力感谢您いたします。無事に終了できましたこの活動が、今後の皆さまの活動へと繋ぐことができますれば幸いです。

#### 【引用・参考文献】

- 1) 文部省 肢体不自由児の養護・訓練の指導 社会福祉法人日本肢体不自由児協会 1994 p.305
- 2) 栗野理恵子 「第 1 回音楽療法学会抄録集・音楽聴取がもたらす感情的変化に関する心理学的研究」 発表 2002 p.135
- 3) 標準音楽療法入門・下実践編 監修：日野原重明 春秋社 1998 p.227
- 4) 文部省 肢体不自由児の養護・訓練の指導 社会福祉法人日本肢体不自由児協会 1994 p.281
- 5) 篠田智璋：監修 新しい音楽療法 実践現場よりの提言 音楽の友社 2001 p.118～131
- 6) 文部省 病弱教育における養護・訓練の手引き 慶応義塾大学出版会株式会社発行 1997 p.246～250
- 7) インターネット検索 「東洋医学 指圧」 2003/8/11 東洋医学の基礎知識→ SHIATU インフォメーション<あんまマッサージ指圧についての基礎知識>
- 8) 文部省 盲学校、聾学校及び養護学校高等部教育指導要領・学習指導要領（平成 11 年 3 月）第 1 章第 2 節第 1 款 4 大蔵省印刷局 1999

- 9) 同上書 第5章第1款
- 10) 同上書 第5章第2款
- 11) 同上書 第5章第1款
- 12) 小宮三彌 末岡一伯 今塩屋隼男 安藤隆男  
障害児発達支援基礎用語事典 川島書店  
2002 p.104~105
- 13) 日野原重明：監修 標準音楽療法入門・下実  
践編 春秋社 1997 p.227
- 14) 小林芳文 永松裕希：編 自立活動の計画と  
展開2 身体健康・動きを育てる自立活動  
明治図書 2001
- 15) 鯨岡瞬：編 養護学校は、今 ミネルヴァ書  
房 2000 p.216~222
- 16) 村井靖次 音楽療法の基礎 音楽の友社  
1997 p.132~140
- 17) 日野原重明：監修 標準音楽療法入門・上  
理論編 春秋社 1998 p.47~58
- 18) 丹羽陽一・武井弘幸 障害児教育&遊びシリー  
ズ④障害の重い子のための「ふれあい体操」  
黎明書房 2000 p.8~20
- 19) 文部省 肢体不自由児の養護・訓練の指導  
社会福祉法人日本肢体不自由児協会 1994  
p.315
- 20) 丸山忠璋 療法的音楽活動のすすめ 明日の教  
育と福祉のために 春秋社 2002 p.6~19

資料：実践時配布用紙

第1回2003年8月1日(金曜日) 「全身リフレッシュ体操」(毎回の活動)

用意するもの：キーボード 延長コード CD デッキ (CD) タオルケット (毛布) テーブル 打楽器 ビデオカメラ

活動 ・「自己紹介」グループの中で「自己紹介」することで自己表現

・「全身リフレッシュ体操」身体に触れることや動かすことで血行を促す

動きの実践 音に合わせてつまむ・もむ **手 ⇒足 ⇒胴体 ⇒頭**

手・右→左 ①手を打つ 掌を打つ・もむ「きらきら星」 Cdur  
 ②指をつまむ、もむ 親指 「こぎつね」 Cdur  
 人差し指 「ロンドン橋」 Ddur  
 中指 「ごんべさんの赤ちゃん」 Edur  
 薬指 「たなばた」 Fdur  
 小指 「うみ」 Gdur  
 ③腕をもむ、動かす 「いつも何度でも」 Fdur

足・右→左 ①足裏を打つ・もむ 「きらきら星」 Ddur  
 ②足指を親指から順につまむ (手②と同じ曲)  
 ③ (大腿部から) 全体をさする 「いつも何度でも」 Fdur  
 ④歩く (全体を動かす・足首をひねる) 「さんぽ」 Cdur

胴 ⇒ ①前・肩→胸→腹 CD「オルゴール・ハーモニー・アルバム ディズニーより ビビディバビディブー」  
 ②後・肩→背中→腰 CD「オルゴール・ハーモニー・アルバム ディズニーより 小さな世界」  
 ③胴体を回すひねる CD「オルゴール・ハーモニー・アルバム ディズニーより 口笛ふいて働こう」  
 ④足で歩く (全体を動かす・足首をひねる) 「さんぽ」 Cdur

頭 ⇒ 押す・さする CD「オルゴール・ハーモニー・アルバム ディズニーより 星に願いを」  
 足で歩く (全体を動かす・足首をひねる) CD「ディズニー よいこのドライブミュージック」

第2回2003年8月8日(金曜日)

・名前を書いて名札をつける

・好きな曲は何? : 各々持ち寄った好きなCDを紹介し、鑑賞する 持ち寄ったCDの曲名・好きな理由を書く

配付プリント2

(名前を書いてください)
今日持ってきたCDの曲名は?
いつ買いました?
どんな曲ですか?

・この曲なんですか? (CDを聴いて映画の題名を当てる・(2曲)「ロッキーのテーマ」「スーパーマンのテーマ」)

・ボールをまわそう! ゴムひもをつなぐ作業→音に合わせてみんなでまわす

・「全身リフレッシュ体操」(毎回の活動の目的) 音にあわせて全身リフレッシュ体操

・クラシックを聴こう!

CD「トッカータとフーガ 二短調」J.S. バッハ バッハについて説明:(プリント(上半身)を見せてバッハ音楽家としての生涯を説明する)

生涯=1685年3月21日 ドイツ生まれ 8人兄弟の末っ子 9歳で両親が他界 14歳年上の兄に引き取られ、オルガニストであった兄に音楽教育を受ける 18歳から教会のオルガニストになる 結婚は2回、1回目は6人、2回目は13人の計、19人の子どもに恵まれる 教育用として家族や弟子のために多くの曲を作る 「オルガンの達人」として知られていた 当時演奏家は芸術家として認められていないためバッハの作品は演奏されることは殆どなかったらしい 1750年66歳でこの世を去る

・「全身リフレッシュのための試み」(毎回の活動) 音にあわせて全身リフレッシュ体操

第3回2003年8月22日(金曜日)

・笛を鳴らそう!・(呼吸機能の活性)

練習→息を止めて力いっぱい笛を吹く (指導(「ふー」と吹く) 打楽器を打つ (まず打ってみる)

「きらきら星」に合わせてフレーズごとに音を出す 1回目→「ふー」と吹く・2回目→楽器を鳴らす

合図(低い音・笛、高い音・楽器)に合わせて音を出す

・ハンドベルを鳴らそう! (用紙を配布する) 「わらべ歌」の音(ラ・ミ・ソ・ラ・シ)を実感する

重度の障害のある子ども達との音楽活動 - 毎回の実践から捉えたもの -

「荒城の月」をトレモロ奏 旋律奏→「メリーさんのひつじ」「ロンドン橋」「よろこびのうた」コード→「G・C・F」

・クラシックを聴こう！ CD「トッカータとフーガ 二短調」J.S. バッハ パイプオルガン

バッハについて説明：(プリント(上半身)を見せてバッハ音楽家としての生涯を説明する) 生涯=1685年3月21日 ドイツ生まれ 8人兄弟の末っ子 9歳で両親が他界 14歳年上の兄に引き取られ、オルガニストであった兄に音楽教育を受ける 18歳から教会のオルガニストになる 結婚は2回、1回目は6人、2回目は13人の計19人の子どもに恵まれる 教育用として家族や弟子のために多くの曲を作る 「オルガンの達人」として知られていた 当時演奏家は芸術家として認められていないためバッハの作品は演奏されることは殆どなかったらしい 1750年66歳でこの世を去る

・「全身リフレッシュのための試み」(毎回の活動) 音にあわせて全身リフレッシュ体操 (アンケートのお願い)

第4回2003年8月29日(金曜日)

・「合奏しよう！」 ♪わらべ歌(打楽器+ハンドベル) 打楽器→2つのグループに分かれる  
ハンドベル→(核音「ラ」) 2つのグループに分かれる

「ラ・シ・ド・レ・ミ・ソ・ラ・シ・ド・レ・ミ・ソ・ラ」(「ファ」抜き)

グループ1: . ● / . ●● ://
グループ2: ● . / ● . ://

♪「森のくまさん」歌詞(1番):リズム画用紙1, 2 ★リズム1: ● ○ ★リズム2: ○ ● ● ●

帽子箱 木魚・中  
木魚・大  
(ウッドブロック低い・高い)

ハンドベル(コード奏)→G(シ・レ) C(ド・ミ・ソ) F(ファ・ラ・ド)

★歌+打楽器・音だし

ハンドベル→ C — — — — — —  
 . . . . . . . . . .  
 ある — ひ 森 の な か

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
 ある — ひ 森 の な か

ハンドベル→ — G — — — C — —  
 . . . . . . . . . .  
 熊 さ ん に で あ っ た

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
 熊 さ ん に で あ っ た

(一緒に音だし) ハンドベル→ — — — — — F — — — C ~  
 ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ~ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ~  
 花 さ く も り の み ち ~ 熊 さ ん に で あ っ た ~

2番:くまさんの いうことによ おじょうさん おにげなさい スタコラサツ  
 3番:ところが くまさんが あとから ついてくる トコトコトコ  
 4番:お嬢さん お待ちなさい ちよつと おとしもの 白い貝がらの小さなイヤリング  
 5番:あらくまさん ありがとう おれいに 歌いましょう ララララララ

・「クラシックを聴こう！」ベートーベン「交響曲第5番・運命」第1楽章「ダ・ダ・ダ・ダ・ダーン」 ルードヴィヒ・ファン・ベートーベン(インターネット「作曲家」「ベートーベン」で検索) 1770年~1827年 ドイツ、ボンに生まれる 宮廷歌手であった父親に4歳から厳しい指導を受ける 14歳で宮廷楽師としてオルガン奏者となる 28歳の頃から聴力減退 交響曲9曲 ピアノ・ソナタ32曲 弦楽四重奏曲20曲ほどその他いろいろ作曲する 40歳のとき、18歳のテレゼに恋をする「エリーゼのために」(悪筆のため研究者が文字を読み違えたため)「運命」について⇒1808年(33歳)のときの作品 冒頭「ダ・ダ・ダ・ダ・ダーン」「運命の動機」弟子のシンドラーが冒頭の主題について尋ねたところ「運命はこのように扉をたたく」といったところから交響曲第5番は「運命」という愛称がつけられたそうだ

・「全身リフレッシュ体操」(毎回の活動)

## Musical Session for Handicapped Students

### — From Four Times Sessions —

Ando, Masako\* Iida, Kazuya\*

重度・重複障害を持った子ども達との4回の音楽療法的活動は、前半では、楽器を使用した能動的な音楽活動を、後半では、「全身リフレッシュ体操」を毎回取り入れて行った。活動の目的は、療法的な効果と共に、メンバーの子ども達を中心にして、参加者全員で楽しむことにある。事前の打ち合わせや実践時での保護者の言葉から、大切なことは、対象を子ども達から参加者全員にすることで、実践効果があがることを理解した。以後、実践は、「子ども達にさせる」ではなく、「みんなでやる」に変更した。メンバー達と全員で体験した活動を活動内容の用紙の配付と実践時の説明を心がけることで、この会の今後の活動につなぐことができるように工夫した。また、第3回目の活動終了後のアンケート調査結果から、「保護者の思い」が見えてきた。重度の障害を持ったメンバー達が、(音楽)活動を介して多くの関わりを持ち、身体的にも精神的にも様々な刺激を「体験する」ことで、メンバーの子ども達が育ち、発達することを願っている親の思いを意識した。障害を持った子ども達との活動の実践者として、「体験する」ことの意味を大切にして今後の実践に向けたい。

キーワード：重度・重複障害児（メンバー）、療法的活動、対象の変化、実践の変更、体験する